

“患者に越年資金を”

水俣市長ら県に陳情

「水俣市を明るくする市民連絡協議会」の代表十五人は浮池市長とともに二日、県庁に沢田知事をたずね、水俣病患者に対する越年資金の支給などを陳情した。

同協議会は、自民党市支部を中心に、おもに保守系市民で結成した団体で、これまで水俣病から

む諸問題を解決するため署名運動などをしてきた。

この日は、①水俣病全患者、家族に対する越年資金の支給②新認定患者を含む二十五人の症状ランク付け③水俣湾のヘドロ対策④企業誘致などを要望、これに対し沢田知事は「越年資金は、もともと水俣市が支給すべき性質のものだ。市が支給すれば、県はこれに財政援助したい」と、これまでの県の考え方を繰り返し述べた。

また患者のランク付けについては、「認定する立場にある県が補償にからむランク付けをするのはおかしいという批判がある。私ももっともなことだと思つので、手

を出したくない」と答え、ヘドロ対策、企業誘致については、今後県としても努力することを約束した。